

公益財団法人 8020 推進財団

平成 26 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：

歯科医院通院中の高齢者(80 歳以上)におけるアンケート調査

2. 申請者名：一般社団法人 佐世保市歯科医師会

代表者 七熊 正

担当者 八谷 成紀

3. 実施組織：一般社団法人 佐世保市歯科医師会

4. 事業の概要：

近年は高齢化が進んできているが、平均寿命に比べて健康寿命は男性 9.13 年、女性 12.68 年(平成 22 年)と短く、医療・介護負担の増加など様々な問題がある。国民の負担の軽減、QOL の向上のため、健康寿命を延ばすことは重要な課題の一つである。今回、我々は歯科医院通院中の 80 歳以上の高齢者を対象に、全身の健康状態、口腔内の状況(残存歯数や咬合の有無(義歯を含む))、日常生活習慣等を調査し、QOL との関係の分析を行った。残存歯数が多いことと QOL との関係について地域住民に広く周知し、歯科保健の意識向上することにより口腔から地域住民の健康をサポートすることで地域社会へ貢献できると考えられる。

5. 事業の内容：

佐世保市歯科医師会所属の歯科医院のうち、協力が得られた 22 医院を受診した 80 歳以上の患者を対象にアンケート調査を実施した。調査期間は平成 26 年 10 月～12 月とし、62 名から回答を得た。

アンケートの質問項目は全身の健康状態、口腔内の状況、回答者の属性、日常生活における健康習慣、身長と体重(BMI)、老研式活動能力指標および GOHAI とした。アンケート結果を 8020 達成者とそれ以外の者と分けて比較し、高齢者の傾向・地域性・有意差を検討した。その結果は学会や地域のイベントを通して広く周知・啓発する予定である。なお、GOHAI については特定非営利活動法人健康医療評価研究機構から使用許可を得ている。

6. 実施後の評価(今後の課題)：

今回の調査では、8020 達成者と非達成では、自覚的な健康感や老研式活動能力指標については、顕著な差を認めなかった。今回の調査は、歯科医院を受診した患者を対象としたため、歯科医院を受診できる、すなわち比較的活動能力が高い者が対象であったため、顕著な差がみられなかったと思われた。8020 非達成者においても、適切な補綴物を装着することにより、比較的良好的な口腔機能の維持が可能であり、そのため日常生活においては支障が生じていない可能性が考えられた。今後は、補綴状況などを加味した調査・分析が必要であると思われた。